

「主イエスの受洗」

2015年05月01日

ルカによる福音書 3章21節～22節。民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

洗礼者ヨハネの悔い改めの洗礼運動は民衆の大きな支持を得た。人々は続々と集まり、大挙して洗礼を受けた。時代を揺り動かす大宗教運動になっていった。ヨハネの禁欲的な姿勢と真実な言葉が人々を動かしたのである。この時、主イエスもヨハネの所に来て、洗礼を受けられた。この事実は確かであろう。この後、ヨハネは領主ヘロデの兄の妻と結婚した律法違反を責めたために、怒りを買って、投獄される。ヨハネと主イエスの関係は途切れる。二人はどのような関係であったのであろうか。ヨハネから洗礼を受けたということは、主イエスはヨハネの洗礼運動を認め、彼の弟子になったことを意味する。しかし、二人の宣教内容は異なっている、ヨハネは貧しい者と分かち合う愛と、無謀な利益を求めない社会的正義を生きよという悔い改め（方向転換）を求める宣教であった。主イエスの宣教は、人は皆神に「よし」と是認された祝福の中にあると、言葉と業で、そのリアリティを示された。それゆえに、互いに受け入れ合って生きよと語り、逆に、それを阻む力を厳しく否定された。主イエスはヨハネを踏襲する弟子ではなかったと思える。

主イエスがヨハネから洗礼を受けたことには他の理由があるのではないか。その理由は二つある。一つは、罪ある人間と一緒になられたことである。洗礼は罪に死んで、神に向かって立ち上がる「新生」である。ヘブライ書4章15節に「この大祭司（主イエス）は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」と書かれ、主イエスは罪を犯さなかったという。これは、キリスト信仰が言わせた言葉である。ナザレのイエスも罪を犯し、生きる苦悩と空しさにうめいたことがあっただろう。主イエスはご自分の罪を知っておられ、その罪の赦しを求めた。これは、罪にうめく人間と同じ地点に立たれたということである。同じ地点に立たれたから、人間が遭遇する試練に遭われ、それゆえに、弱さに同情できる方であったのである。

もう一つの理由は洗礼を受けた時の様子と天からの声である。主イエスが祈っておられると、天が開け、聖霊が降った。当時の天は山々に支えられたドームのように理解されていた。その天が開いた。そして、聖霊が見える形で、鳩のように主イエスの上に降って来た。壮大なスケールで「神々しい」シーンである。すると、天から「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声がした。主イエスの受洗において、神の愛する子であるとの宣言が天から響いた。マタイ、マルコ、ルカの共観福音書は、この宣言を受けるために、ヨハネから洗礼を受けたと共通理解を説いている。神の子であるから、神の心に適う者である。神が誰であるかを問うならば、神の心に適う主イエスに聞きなさい、そうすれば分かる。聖書が告げる神は、人間が想像する自分に都合の良い神ではなく、苦難を負い、自らの死において人間を救う主イエスに現されているという一点に集中している。主イエスの受洗は、罪と連帯する人間であるが、同時に、神の心に適う神の子であることを表した出来事である。